

生きている地球の記録

グリーンイメージ国際環境映像祭入賞作品等上映会

2023 sun

7.23

10:00-15:50
(開場9:30)

入場無料

定員220名

要整理券

名古屋市科学館
サイエンスホール
生命館地下2階

地下鉄「伏見駅」4番・5番出口徒歩約5分
市バス「広小路伏見」または名鉄バス「白川公園前」下車

主催

公益財団法人三菱UFJ環境財団
名古屋市科学館・中日新聞社

共催

グリーンイメージ国際環境映像祭実行委員会

後援

愛知県教育委員会

Screening Schedule

10:00~10:20

第8回グリーンイメージ賞

空にある村

(インド/20分)



10:30~11:38

第7回グリーンイメージ賞

蟹の惑星

(日本/68分)

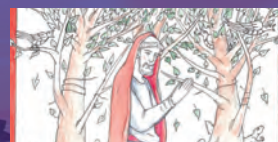


11:50~12:01

第9回グリーンイメージ賞

静寂を破るあらし

(イギリス/11分)



12:01~12:04

第8回グリーンイメージ賞

この水だれの水

(イラン/3分)



昼食休憩

13:00~13:54

第5回審査委員特別賞

風砂の町

(ニジェール/54分)



14:10~14:40

第3回グリーンイメージ賞

BALAZHER — 現実の修正

(スイス・ウクライナ/30分)



14:55~15:50

第8回特別上映作品

里馬の森から

一森を活かす古くて新しい技術・馬搬

(日本/55分)



※全作品とも、これまでの上映会では未上映の作品(「蟹の惑星」は2020年の上映予定作品だったがコロナ禍で上映会が中止となったため未上映)

※海外作品は、日本語字幕となります。プログラムは変更することがございます。

申込方法

観賞ご希望の方は、往復はがきに郵便番号、住所、応募者全員の氏名と年齢(中学生以下・高生・大人の別)、電話番号、返信用の住所・宛名を記入して下記まで申し込むか、インターネットにてお申込ください。(はがきは1葉5名様まで、応募者多数の場合は抽選。)*重複申込があった場合は全ての申込が無効となります

照会先:名古屋市科学館「生きている地球の記録」係 あるいは (公財)三菱UFJ環境財団 TEL(03)5730-0337 FAX(03)5232-0312

往復はがき

インターネット / 名古屋市電子申請サービス

〒460-0008 名古屋市中区栄二丁目17番1号
名古屋市科学館「生きている地球の記録」係
TEL (052) 201-4486

<https://ttzk.graffer.jp/city-nagoya>
こちらから「名古屋市科学館 生きている地球の記録」で
検索してください。



応募締め切り

2023年7月7日(金)必着

取得した個人情報は本事業の
運営目的以外には使用しません



生きている地球の記録

2023年7月23日(日) 上映作品紹介



第8回グリーンイメージ賞

10:00~10:20
空にある村

(インド / 20分)

十分な水も灌漑施設もないインドの村に、最新の風力発電所計画が持ち上がる。

インド / 2018 / 20分
プロデューサー: Film and Television Institute of India
監督: Ramesh Laxmanrao HOLBOLE
製作: Film and Television Institute of India



第7回グリーンイメージ賞

10:30~11:38
蟹の惑星

(日本 / 68分)

多摩川河口の干潟で15年に渡って独自にカニの研究を続ける吉田唯義さん、83歳。定年退職後に突如としてカニに目覚めた吉田さんは、その魅力にとりつかれ、毎日のように干潟へ通う。オリジナリティ溢れる好奇心でカニと向き合う吉田さんの視点を通し、カニの美しいフォルムや色彩、驚異の生態を究極のクローズアップで捉えた全編"カニづくし"のワンダームービー。大スクリーンを巨大なカニが埋め尽くす。

日本 / 2019 / 68分
プロデューサー・監督・製作: 村上 浩康



第9回グリーンイメージ賞

11:50~12:01
静寂を破るあらし

(イギリス / 11分)

詩的で自然中心の世界が存在するスワンズクーム半島。そこは生物多様性豊かな湿地帯であり、そしてヨーロッパ再緑のテーマパークの建設予定地である。インド、キプロス、カナダ、韓国の環境活動家は脆弱な湿地帯が直面する暗い未来を嘆き、一連の環境破壊の数々が時間を超えてこだまのように繰り返される。

イギリス / 2021 / 11分
プロデューサー・監督・製作: George CLOKE



第8回グリーンイメージ賞

12:01~12:04
この水だれの水

(イラン / 3分)

水不足で苦しむ子どもたちの新聞記事を見た少女が取った小さな一歩を描いたショートムービー

イラン / 2019 / 3分
プロデューサー: Art Department of North Khorasan
監督: Noah AMANI
製作: Art Department of North Khorasan

昼食休憩



第5回審査委員特別賞

13:00~13:54
風砂の町

(ニジェール / 54分)

ニジェール北部のアーリットでは、1976年からウラン採掘を行なっています。地域の住民は、それらに関しての危険性すべてについて知らされていません。年間を通して、町全体に強い風が吹きつけ粉塵にまみれた風が放射性物質を撒き散らします。誰もが避難場所を探し、この町は静まりかえり、そして全ての活動が停止するのです。

ニジェール / 2016 / 54分 / プロデューサー: Florent COULON
監督: Amina WEIRA / 製作: Vrai/Vrai Films



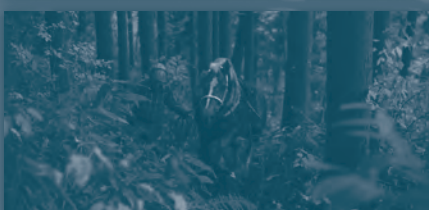
第3回グリーンイメージ賞

14:10~14:40
BALAZHER
—現実の修正

(スイス・ウクライナ / 30分)

社会システムは移り変わるが人々は取り残される。ソビエト時代から使い続けられている古いバスがEUの国境沿いを走りつづけている。この地政学的な接点であるこの街で、古びたバスはその過去のごとく今にも壊れそうな姿である。バスはやってくるのか? こないのか? 乗客たちは停留所で辛抱強くバスを待ち続ける。そして彼らは、もしかすると今より良き未来へ、バスが彼らを連れて行ってくれることを夢見ている。以前のウクライナの日常が映し出されている。

スイス・ウクライナ / 2013 / 30分 / プロデューサー: チューリヒ芸術大学
監督: Lesia KORDONETS / 製作: チューリヒ芸術大学



第8回特別上映作品

14:55~15:50
里馬の森から
—森を活かす古くて新しい技術・馬搬

(日本 / 55分)

今や日本ではほとんど馬と暮らす姿は見ることができない。山から木を馬と共に搬出する「馬搬」を行う職人は東北地方では岩手県の74歳の職人とその弟子、38歳の二人だけになった。日本在来馬もその数が激減し、数百年にわたり馬と暮らしてきた人々の暮らしも高齢化や過疎で続けるのは困難な現状である。かつて人と馬は共に一つ屋根の下で暮らし生きていた。現在、わずかに残る昔ながらの馬との暮らしや文化を一年に渡り記録。

日本 / 2016 / 55分 / プロデューサー・監督: 尾立 愛子
製作: グリーンイメージ国際環境映像祭実行委員会

※全作品とも、これまでの上映会では未上映の作品(「蟹の惑星」は2020年の上映予定作品だったがコロナ禍で上映会が中止となったため未上映)

※海外作品は、日本語字幕となります。プログラムは変更することがございます。